

## 大学教育再生加速プログラム(AP) 中間評価結果

整理番号	64	大学等名	大阪市立大学
テーマ	テーマV 卒業時における質保証の取組の強化		

### 【総括評価】

A：計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

### 【コメント】

<優れている点>

- ・本事業の目的は、OCU（Osaka City University）指標を開発することで、全学的な学修成果と各学位プログラム固有の学修成果の両方を質的・量的に直接評価できるシステムを構築し、卒業時の学修成果の質保証を実現することである。全学的な体制の下で事業は効果的に推進されており、取組を評価するための仕組みも確立されている。さらに、TA/SA 育成・活用を通じた教育支援、初年次教育の体系化、教育評価ポリシーの策定、ポストドクター・キャリア開発事業、チューター育成プログラム検討チームの活動等が、関連する学修支援業務として展開されていることも評価できる。
- ・OCU 指標開発においては、平成 29 年度以降は比較的低額のメンテナンス費用によって継続可能な設計がなされている。また、人件費は補助期間終了後も寄附金や学長戦略経費より支出される予定であり、事業継続が見込めるものとなっていることから評価できる。
- ・OCU 指標は、本大学経済学部において平成 21 年度から利用されてきた PE（Practical Economist）指標を、他学部・他大学にも活用可能なように改良したものである。その意味で、本大学において全学規模での活用に成功した段階で、その汎用性はある程度実証済みのものとして他大学に展開・普及されることが期待でき、評価できる。

<改善を要する点>

- ・本事業によって、本大学が既に取り組んでいた改革がどのように「加速」されたのかについて明らかにする必要がある。
- ・OCU 指標がディプロマ・ポリシーに対応したものであり、開発に向けた取組が経済学部の学位プログラムで手掛けられているようであるが、それが具体的にどのような指標であるのかが明確でない。OCU 指標構想にどのような情報が含まれ、何が明らかになるのかを経済学部の学位プログラムに基づいて具体的に示す必要がある。また、経済学部を基盤とした OCU 指標が、他学部にとっても妥当であると主張する根拠を示す必要がある。
- ・本取組では、平成 30 年度から 31 年度にかけて、「本事業計画に参画する教員の割合」や「OCU 指標導入」、「養成能力配分のシラバス上での数値提供」等において、飛躍的展開が計画されている。この見通しが妥当であり、実現可能であるか、補足的な説明が必要である。